

仕合わせの



第185号

H. 29. 8. 1

(毎月1日発行)

しつけと虐待

住職 谷川寛俊

親が子供に対する「虐待」の事件が後を絶ちません。毎日のように新聞等で報道されています。子供に対する過度な暴言や身体に跡が残る暴力が、近年大きな社会問題となっています。3年前に全国の児童相談所に対応した虐待件数は十万件を越え、過去最多を記録したともニュースで知りました。そして、この虐待事件のほとんどが「躰(しつけ)だと思つてやった」という親の言い分を耳にします。しかしよく考えてみると「しつけと虐待」は全く性質が異なります。しつけとは、『礼儀・作法を身につけさせること』と辞書に示されています。しつけは当て字として「躰」、つまり身を美しくするを意味する通り、親が子供に対して、将来に向けた人間としての美意識を植え付けることなのです。だからこそ大人は愛情を持って子供と接し、感情に動か

されたりしないで、社会性の豊かな感覚や形(姿)を身につけさせることが本分となります。

私自身も、子供が小さい時に感情を抑えきれず暴言を吐いて叱ったことがあります。今思い返せば、虐待ではなかったかと疑問を懐くこともありま。しかし子供といつても、この世に生を受けた時から別の人格を持つ一人の人間として認めなければならぬと思います。大人はその事を理解し、感情や考え方を受け止めてあげることが大切なのではないでしょうか。

親が暴力を振るったり、恐怖を与えるような強い言葉を使ったりしてしまえば、子供の権利を侵害し「虐待」そのものとなります。中には厳しくしなければ言うことを聞かないという理由で虐待をしてしまうケースもあるようですが、躰と虐待の区別を付けければ、自分の気分や思いつきで叱ったり、昨日と今日と言っていることが違ったり、子供自身が納得しない叱り方や、子供がやった行為や失敗に対していきなり

祝 開創500年

「仕合わせの和」

と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行

玉蓮山 真成 寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

叱るのではなく、また感情的にならぬよう注意を払わなければいけないと思います。

先日、お寺に嫁いだ奥さんからのお便りの一部をご紹介します。

「親の意見と冷や酒は後で効く」。大好きだった祖母が私に言っていたのを思い出します。冷や酒の酔いが後でユツクリと効いてくるように、その時言われたことは、それ程大切にも思えず、面倒くさく感じられる親の意見も、後々になれば納得することが多く、有り難く思うものであるということ。祖母は「人はしたようにされる」。「笑顔には笑顔が返ってくる」。「先祖を大事にしないと自分も守ってもらえない」。これらの事は、当時若さに任せて自分の力を過信し、何でも出来ると思っていた私にはピンとこなかった。やがて縁あってお寺に嫁いで、自分の力ではどうにもならないことを経験し、奇跡

も見てきた。先祖供養する家に救いがあることも知った。この歳になって、ようやく祖母の言葉の意味を理解できるようになってきた。お寺に来る人は、回を重ねる度に、仏様のような和顔になる。先祖や家族を想って寺参りすることで自分自身が仏様に近づき、守護を頂いている証拠だろうと思う。因果は巡る。次は、冷や酒が本当に後で効くか？を試してみたい、と。

